

地域との対話の概要

平成24年12月4日
薩摩川内市

【ポイント】

1. ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、2カ所の教育機関(生徒)との意見交換を行った。
2. 地域資源の活用や交通網の整備、商店街の賑わいやまちおこしが必要との意見があった一方、具体的な取り組みや人口減少等の課題解決の参考になる意見等も出された。

1. 経緯

これまでのビジョン策定委員会及び地元作業部会での委員の意見を踏まえ、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、7月24日(火)から10月17日(水)にかけて、地区コミュニティ協議会(15カ所)と団体・機関等(3カ所)との意見交換を実施してきた。

これに引き続き、更に市民のニーズを吸い上げるべく、10月30日(火)と11月20日(火)に、教育機関(2カ所)との意見交換を行った。

2. 意見交換日程

以下の2カ所で実施。いずれの会場も、生徒会役員等(十数名)が出席した。

- (1) 10月30日(火): れいめい高等学校(生徒会)
- (2) 11月20日(火): 川内高等学校(生徒会)

3. 市民等から頂いた主なご意見

- (1) れいめい高等学校
 - (ア) 薩摩川内市は、エネルギーをつくっていることをPRするとともに、対外的にアピールできるものをつくっていくことが大事ではないか。
 - (イ) 自分が学んだことや自分がやりたいことなど、自分の専門が活かせる職場が市内にあるとよい。
 - (ウ) 現在ある職場の改善(例えば介護現場の給与条件の改善等)を行うなど、仕事につきやすい環境づくりが必要ではないか。
 - (エ) まちを盛り上げるためには、自分達が市内に残ることはもとより、外から人が入ってくる仕組みをつくる必要がある。

- (オ) 市内には良い温泉があるので、交通の利便性を図るなどして、もっと温泉を観光産業につなげられたらよい。
 - (カ) 商店街の賑わいを取り戻すことによって、外から人も集まってくる。
 - (キ) イベントなど、まちおこしが必要ではないか。
- (2) 川内高等学校
- (ア) 川内川の流れを使って、エネルギーが創れないか。川内川は大きいので、らせん水車を数多く設置できるのではないか。
 - (イ) 自転車通学で帰り道が人通りも少なく暗いので、街灯を設置してほしい。その電源として太陽光パネルを設置してはどうか。
 - (ウ) バス通学で1時間に1本程度しか運行されておらず、学校の時間に合わせるとバスの時間が早かったりするのでは、交通面をもっとよくしてもらいたい。
 - (エ) 大綱引や花火大会等の大きなイベントは川内地域の市街部で実施されるが、市域は広いので各地域ごとにそれなりの規模でのイベントを実施し、それを連携させていけば色々な人が集まるのではないか。また、学生が参加しやすいイベントが少ない。
 - (オ) 商業施設や公共施設等が点在して移動しにくいので、施設間をつなぐ交通網の整備や施設等を集約するなど、学生にも利用しやすくしてほしい。
 - (カ) 原発事故の影響で宿泊客の少ないホテルを満室にさせるには、市外から人を呼び込めるような施設(遊園地等)を整備すれば、1年中賑わうのではないか。
 - (キ) 薩摩川内市は、もっと農業や漁業など自然を活かしたイメージアップが必要ではないか。
 - (ク) 川内商工高校などは専門の教科を学んでいるので、他の学校との交流ができれば、就きたい職種の範囲も広がるのではないか。

以上